

拒絶理由通知書

整理番号 0207110

発送番号 30861

発送日 平成19年 6月20日

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2003-020107
起案日	平成19年 6月14日
特許庁審査官	橋 均憲 3045 5Q00
特許出願人代理人	立石 篤司 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理由

1. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

本願の請求項1（およびそれを引用する請求項2-8）には「段差が存在しない滑らかな先端形状」と記載されているが、「段差」とは具体的に何を指すのか不明であり（段差とは段状になっている所の高低の差を意味するが、どの部分のことか？）、また「滑らか」の定義、程度が不明であり、当該「先端形状」を具体的に想定できない。

2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

3. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 （引用文献等については引用文献等一覧参照）

- ・請求項1, 3, 6-8に対して引用文献1, 2により理由1, 2
- ・請求項1-8に対して引用文献1-3により理由2

備考：
引用文献1の図2に開示された技術は、装置本体を縦置きで使用した場合でも、スライド板45が少し後方にスライドするのでディスクがトレー40から脱落することがないというものであり、当該スライド板45の形状からして本願の請求項1, 3, 6-8に新規性、進歩性はない。

引用文献2の図2に開示された技術は、トレーを縦方向で使用した場合でも、トレーに一体的に設けられた溝6によってディスクを直立保持するものであり、当該溝6の形状からして本願の請求項1, 3, 6-8に新規性、進歩性はない。

ここで、引用文献3の【0013】-【0014】段落には、ディスクの回転によりディスクの周りに発生する空気がツメ43aにより急激に方向を曲げられることが記載されており、当該ツメの形状を急激に方向を曲げられないような形状とすることは当業者が容易に想到しうることである。

また、ディスクに対向する側の面を曲面としたことによる効果は検証されたものでなく設計事項にすぎない。

以上より、本願の請求項1-8に進歩性はない。

拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引用文献等一覧

1. 特開平09-102157号公報
2. 特開平08-055400号公報

拒絶理由通知書

3. 特[2001-052405号公報

<先行技術文献調査結果の記録>

・調査した分野 IPC G11B17/053

・先行技術文献

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

<問い合わせ先>

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせは下記にご連絡ください。

特許審査第四部情報記録 橋 均憲

TEL : 03 (3581) 1101 ext. 3590

FAX : 03 (3580) 6906